

平成23年度 北里大学青森県民出前講座 「北里科学アカデミー」 メニュー 一覧

No.	分類	講座名	内容	講師
1	細胞と生命	細胞から考える生命-生命科学研究ってどんなことするの-	最近、「生命科学」という言葉をよく聞きます。「生命」とは何でしょう。改めて生命とは何かと問われると、少し考えてしまいます。本講座では、「生命」について、今何が分かっているか、基本単位としての細胞について考えながら、生命科学の研究についても出来るだけ分かりやすく説明を試みます。	かわみなみ みつもり 汾陽 光盛 (獣医生理学教授)
2	細胞と生命	雄性配偶子-精子に関するはなし-	近年、体外受精、胚移植、クローン動物など生殖医療に関するニュースが多く報じられていますが、その話題の中心は卵子や胚であり精子に話が及ぶことはあまりありません。本講座ではそんな精子にスポットを当て、研究の歴史、形態や機能について、また関連事項として男性の更年期障害についてもお話したいと思います。	きくち もとひろ 菊池 元宏 (獣医臨床繁殖学講師)
3	細胞と生命	生殖技術の進歩がヒトの生殖医療にもたらすもの	最近の新聞やテレビでは、体外受精、代理出産、クローン動物など、生殖関係のさまざまな先端技術が紹介されています。本講座では、生殖関連技術が、医学領域でどのくらい実用化されており、人間の将来にどのようにかわってくるのか、社会環境や倫理面を含めて紹介したいと思います。	たかぎし きよひこ 高岸 聖彦 (細胞工学講師)
4	細胞と生命	万能細胞とその可能性	万能細胞は、1990年代からES細胞を中心とした研究が行われてきましたが、2007年に国内で新しい細胞が作成され、ヒトの医療、特に、再生医療での利用について注目を集めています。本講座では、万能細胞とはどのようなものなのか、危険性はないのか、といった疑問について研究と倫理の2つの視点から紹介したいと思います。	たかぎし きよひこ 高岸 聖彦 (細胞工学講師)
5	細胞と生命	身近な微生物、その脅威と恩恵	細菌やウイルスなどの微生物の中には、人類に対して感染症として脅威を与えるものがある一方で、様々な恩恵を与えてくれるものもあります。微生物の脅威が広がっている背景について皆さんと考えるとともに、人類が食、環境、健康面などで微生物からいかに恩恵を受けているか、また微生物の利用性について夢ある話題を提供したいと思います。	むかい たかお 向井 孝夫 (細胞分子機能学教授)
6	細胞と生命	精子、卵子の超低温保存-新しいガラス化超低温保存法の開発とその利用-	生殖工学において、精子、卵子および受精卵(胚)などの生殖系列細胞の保存は非常に重要な技術です。生存性を維持させたまま細胞を長期間保存するためには、液体窒素の温度(-196℃)まで冷却して凍結することが必要です。本講座では生殖細胞の凍結保存について概説するとともに、最近私たちが開発した、精子/胚の新しいガラス化保存法の解説を行います。	ももざわ けんじ 桃沢 健二 (動物生殖学講師)
7	細胞と生命	私たちにとって身近な酸素とは何か	酸素は身近な元素であり、エネルギー獲得に欠かせません。また、酸素は生命の進化に影響を与えてきましたが、地球の進化にも影響を与えています。例えば、現在の大气中の酸素濃度になるのに30億年という長い年月がかかっています。普段何気なく呼吸しているわたしたちですが、改めて酸素について一緒に考えてみませんか。	おりの こういち 折野 宏一 (獣医生化学准教授)
8	細胞と生命	哺乳類の生殖のしくみとその特徴	生物が生きる意味の一つに、子孫を残していく、すなわち種の維持があげられます。我々ヒトのような高等動物になるにつれ“少なく産んで大事に育てる”という特徴が顕著になり、哺乳類の胎生はそれを最も具現化した生殖方式と言えます。本講座では、この生殖の仕組みを私の研究内容も交えながら平易に紹介します。	くるす しろろう 久留志 志朗 (獣医生理学准教授)
9	健康	薬の正しい使い方	薬理学(薬の作用とそのメカニズム)を研究している薬剤師の立場から、薬の副作用を回避して、薬の有効性を最大限に引き出す方法についてお話しします。	はら ゆきお 原 幸男 (獣医薬理学教授)
10	健康	薬物乱用防止教室	薬物乱用はなぜいけないのでしょうか?麻薬や覚せい剤など乱用される薬物の作用の点から、小学生、中学生、高校生等にいけない理由を世代に合わせて解り易く説明します。	はら ゆきお 原 幸男 (獣医薬理学教授)
11	健康	医療・福祉・教育分野への動物の活用	いわゆるアニマルセラピーとして、生きた動物そのものをヒトの医療、福祉、あるいは教育に用いる活動があります。高齢化、少子化の現代社会にとって、これらの活動はますます重要となってきます。本講座では、動物介在活動の現状とその効果、さらには関連分野である盲導犬について、最近のトピックを中心に紹介いたします。	まつうら あきひろ 松浦 晶央 (動物行動学講師)
12	健康	カウンセリング理論から学ぶストレス予防法	ストレスを感じる人は多くいますが、それをうまく処理できる人とできない人がいます。それはなぜでしょうか?本講座ではカウンセリング理論を元に、ストレスが発生する心理的メカニズムとカウンセリングの技法を用いたストレス低減法について紹介し、時間があれば簡単な実習なども行います。	まつもと あきお 松本 明生 (学生相談室講師)
13	健康	鉄分は動物にとってなぜ必要なのでしょう	鉄欠乏性貧血としてよく知られるように、鉄は私たちの健康維持には欠かせない微量元素です。しかし鉄が必要なのは貧血にならないためだけではありません。本講座では動物体内でどのように鉄が利用されているかをお話します。また、鉄分が体内に過剰に蓄積すると、肝硬変や肝臓、糖尿病などの病気を引き起こすことが知られています。このように生体にとって諸刃の剣として作用する鉄についてやさしく解説いたします。	わたなべ きよたか 渡辺 清隆 (獣医生化学教授)
14	獣医療	高齢動物と快適に過ごすために	犬や猫の平均寿命が長くなり、犬や猫の高齢化に伴う問題がクローズアップされるようになってきました。犬や猫とオーナーさんが共に快適な時間をより長く分かち合うためには、犬や猫の老化に伴う変化を良く理解して、犬や猫にとって快適な生活環境を提供し、さらに疾病を予防したり、早期に発見することが重要であります。そこで、高齢な犬や猫が快適に生活するために必要な要因を獣医学的な側面からお話しいたします。	おかの しょうぞう 岡野 昇三 (小動物第2外科学教授)
15	獣医療	麻酔と鎮痛を知らう-いざという時のために-	手術は一生避けたいものですが、麻酔下での手術を余儀なくされる時、誰もが不安を感じます。そんな時、麻酔や鎮痛に関する知識を少しでも持っていたら、そんな不安も少しは軽減されるのではないのでしょうか。本来、麻酔と鎮痛は、医者や獣医師が仕事を安易に行うための技術ではなく、人間や動物を守るためにあります。本講座では、麻酔・鎮痛に関して知っておくべき事項をわかりやすくお話させていただきます。	さきこじゅん いわお 左近允 巖 (小動物第1外科学准教授)
16	獣医療	犬の行動のなぜ、猫の行動のなぜ	犬や猫は色々なしぐさを私たちに見せてくれますが、いったいそのしぐさは何を意味するのか知りたいと思いませんか?この講義では犬や猫の行動をビデオで見ながら彼らの「ことば」に耳を傾けてみようと思います。子どもが犬に手をかまれる事故はなぜ起こるのか?猫が体をすり寄せるのはどういう意味か?こんな疑問にお答えしていきます。	いりまじり まみ 入交 真巳 (動物行動学講師)
17	獣医療	古くて新しい病氣。今、身近に寄生虫が・・・	イヌやネコがコンパニオンアニマルとして飼育され、周囲環境の衛生が保たれている現代社会において、寄生虫による病氣など存在するのでしょうか?そんな疑問にお答えすべく、これまでに実施してきた調査の成績を基に、イヌ・ネコの寄生虫感染が比較的身近な存在であることや、ヒトとの関係を良好に維持するためにどのようなことが必要かを述べさせていただきます。	いとう なおゆき 伊藤 直之 (小動物第1内科学准教授)

平成23年度 北里大学青森県民出前講座 「北里科学アカデミー」 メニュー 一覧

No.	分類	講座名	内容	講師
18	獣医療	イヌ・ネコの中毒～身近にある食物・化合物～	私たちの身の回りには、イヌやネコに対し悪影響を及ぼす物質が以外に多く存在します。イヌやネコが伴侶動物としてヒトとほとんど同じ環境で生活するようになり、これまで以上に中毒をおこす物質に遭遇する機会が増えています。イヌやネコに中毒をおこすものには、どのようなものがあるかをご紹介しますと思います。	しまもと よしのり 嶋本 良則 (附属動物病院助教)
19	農業	安定した農業生産による青森県の活性化	ここ数年の不景気で失業者が増え、社会情勢は危機迫るものがあります。そんな中で農業は比較的安定した経営を続けることができています。これは日々土を耕し、絶えることのない消費者の食糧需要に応えているからです。食の安全、遺伝子組換え食品、農業技術改良など農業を取り巻く環境はとて複雑になり、情報が交錯しています。この情報を整理してもう一度農業の原点に立ち返り、人間社会と農業との関係を考えてみたいと思います。	おおつか ひろみち 大塚 浩通 (大動物内科学講師)
20	農業	いまどきトレンド「精密農業」の目指すところ	農業生産の場面でも、環境にやさしく、将来にわたって作物を生産し続けることのできる方式が望まれます。今のところ、その一つが精密農業であるといわれています。農林水産省では平成15年度から日本型水田精密農業の実証試験を実施しています。そこで、精密農業について概要をお話しし、その目指すところについて一緒に考えてみたいと思います。	たなか かつゆき 田中 勝千 (環境情報学教授)
21	農業	家畜の排泄物を利用した畑作の連作障害軽減と有機農業への挑戦	十和田市で飼育される豚は約7万頭、人口とほぼ同じです。しかし豚の1日の排泄物量は成人の4倍、全体では30万都市の量に相当します。本講座では、大きな環境問題となっている豚の尿污水处理についてJA十和田市との共同研究「畜産汚水処理技術と野菜作りとの連携」を紹介し、畑作の連作障害軽減策や有機農業への取組みなどの最新情報を提供します。	みながわ ひでお 皆川 秀夫 (環境情報学講師)
22	農業	動物福祉、特に家畜と人の関係を考える	食料の需要が急速に増加した近代において、農産物の生産が工業化し、生産効率のみが重視されるようになり、家畜の健康や生活環境が顧みられず、悲惨な状況での飼育が続ききました。その結果の一つが、食の安全性の低下です。これから私たちは生産者・消費者として、食料源である家畜とどう向き合えばよいのかを考えます。	やまざき あつし 山崎 淳 (動物飼育管理学講師)
23	食品	知って安心-食品寄生虫の話-	かつての日本は寄生虫が蔓延していましたが、徹底的な対策により戦後20～30年の間にほとんど見られなくなりました。ところが近年のグルメブーム、輸入食品・海外旅行の増加などにより再び寄生虫感染が発生する傾向にあります。本講座では食品を介して感染する寄生虫の特徴とその予防法について解説します。	くどう のぼる 工藤 上 (獣医寄生虫学准教授)
24	食品	ミルク(牛乳)の生産はホルモンによってコントロールできる	牛乳はミルクを造るプロフェッショナルですが、近年我が国でも年間20,000kg以上のミルクを生産するスーパーカウが多数みられるようになってきました。ミルクの生産は生体内のいろいろなホルモンによってコントロールされています。本講座では、ミルク生産のホルモンによる制御技術を含めて、ミルクがどうやって造られるのかについてお話ししたいと思います。	ほだて こういち 南立 孝一 (動物飼育管理学教授)
25	食品	体に良い食品なんてない!	「体に良い食品」が世の中に溢れています。マスコミでは、食品を「体に良い」ものと、「体に悪い」ものとクリアに分けたがります。しかし、話はそれほど単純ではありません。その食品の摂取の仕方(量など)や、皆さん自身の健康状態によっても大きく影響を受けます。食品と健康について、皆さんと一緒に考えます。	ありはら けいぞう 有原 圭三 (食品機能安全学教授)
26	環境	地球温暖化による食料生産・生態系への影響	地球の気温は地表が受けるエネルギー量(主として太陽エネルギー)と地表から宇宙へ放射されるエネルギー量のバランスで決まります。石油などの化石燃料を燃やして発生する二酸化炭素などの温室効果ガスは地表の熱が宇宙へ出て行くのを妨げるために地球温暖化が起こります。本講座では食料生産に多大な影響を及ぼす地球温暖化による異常気象、また、乱獲による水産資源の枯渇や森林伐採等による生態系の破壊についてお話しいたします。	あずま よしゆき 東 善行 (動物栄養代謝学准教授)
27	環境	環境問題と報道-環境問題を正しく理解するために-	環境問題は地球規模で広がり、しかも年々深刻化しています。それは事実なのですが、私たちは誤った情報や部分的に誇張された情報によって、誤った方向に誘導されてしまうことがあります。この講演では、環境問題に対する偏った報道によって、私たちの日常生活に大きな影響を与えたいくつかの事例をご紹介します。私たちが環境問題を正しく理解するためにどのような点に注意すべきなのかを考えてみたいと思います。	うえの しゆんじ 上野 俊治 (獣医公衆衛生学准教授)
28	環境	環境を測る-環境の質と私達の健康-	毎日飲んでいる水を分析してみませんか? 毎日口にする飲料水ですが、最近では様々な水が市販されていますが、水道水も含めてその成分は様々ではありません。生命の水と言われますが、環境中で私達が飲める水がどのように形成されるのか、飲み水に問題はないのか、実際に水の分析をしながら考えてみたいと思います。	ばば みつひさ 馬場 光久 (緑地保全学講師)
29	環境	樹の見方、森の見方-植生管理学入門-	植物を見分けるにはコツが要る。植物の見分け方を習ってみませんか? 植物が見分けられるようになると植物を見るのがちょっと楽しくなってきます。森や草原、あるいは公園などにある植物の集り(群落)には温度変化を小さくしたり、水の涵養をしたりと様々な環境保全機能があります。植物の持つ機能についても考えてみたいと思います。	ばば みつひさ 馬場 光久 (緑地保全学講師)
30	環境	「個体をみる」野生動物学	かわいいしぐさで私たちに癒してくれた、農林業被害を起こしたり、野生動物にはさまざまな面があります。しかし野生動物の各個体がどのように生きているのかについてはあまり話題にされることはありません。この講義では、野生動物のことをもっと知ってもらうため、ニホンジカを例に野生動物の「個性」についてお話しします。それぞれの人生ならぬシカ生に違いがあることを知ることで、野生動物をもっと好きになっていただきたいと思います。	おかだ あゆみ 岡田 あゆみ (野生動物学講師)
31	環境	意外に身近な放射線	放射線といえば特別なもので、レントゲンや原子力発電を想像するかもしれませんが。実は、放射線は身のまわりのどこにもあります。では、いつも放射線を浴びている体は大丈夫なのでしょうか?そこで、放射線に対して体がどのように反応するかを理解することによって、放射線とのつきあい方について改めて考えてみませんか。	わた せいいち 和田 成一 (獣医放射線学講師)
32	環境	湿地は大きなティーポット-河川や湖沼に溶けている有機物のお話-	茶葉にお湯を注ぐとお茶が出るように、自然環境中でも枯葉や植物遺体が雨に濡れたり水に浸ったりすると、お茶のように有機物が水に溶け出します。お茶は体に良いっていいですね。それでは、環境中の水にはどんな有機物が溶けていて、環境中でどんな働きをしているのでしょうか?本講座では水環境中の「お茶」の組成と動態、そして機能についてお話します。	まいえ ながみつ 真家 永光 (水環境学講師)
33	環境	イルカ・クジラってどんな動物	日本は海に囲まれた島国です。その海には私たちと同じ哺乳動物が棲んでいます。中でもイルカやクジラはその代表であり、水族館で目にかかる事ができる身近な動物です。今回はそのイルカやクジラがどのような動物で、水族館ではどのように飼育されているのか、また時々ニュースで話題になる漂着鯨類について紹介します。	しんどう じゆんじ 進藤 順治 (野生動物学准教授)

北里大学 青森県民出前講座「北里科学アカデミー」受講申込書

平成 年 月 日

北里大学獣医学部長 殿

団体・グループ名：

住所： 〒

代表者の氏名：

住所： 〒

Tel：

Fax：

北里大学 青森県民出前講座「北里科学アカデミー」を受講したいので、次のとおり申し込みます。

講座名 (No.)	(No.)
希望日時	平成 年 月 日 () 時 分～ 時 分
場 所	
参加人数	人
集会などの名称	
開催目的	
備 考	